

知多の古窯Ⅱ —知多半島の中世古窯—

6月11日(土)～8月31日(水)

今年の夏の企画展は、「知多の古窯Ⅱ—知多半島の中世古窯—」です。

知多半島は、平安時代から室町時代にかけて窯業が盛んで、3千基ともいわれるほど多くの窯が造られた一大生産地でした。その製品は碗や皿などの日用品が多く、全国各地の遺跡から出土しています。

今回は平成24年に開催した「知多の古窯」展に続き、県内の博物館等の協力を得て、知多半島初公開の貴重な資料を一挙に公開します。また、期間中には、古窯について分かりやすく解説するギャラリートーク等のイベントも開催します。ぜひ博物館にお越しください。



ギャラリートーク

ここがすごい! 知多半島の古窯の魅力に迫れ!

■日時 7月16日(土) 10時30分～11時30分、13時30分～14時30分
※同じ内容のものを2回実施します。

関連
イベント

わくわく体験コーナー

本物の土器を触ってみよう! —これできみも古窯はかせ—

小学生向けの楽しいクイズもあります。夏休みの思い出にいかがですか。詳細は、博物館ホームページをご覧ください。

学芸員のこれがイチオシ!!

なが なり さん きん こ 長成池古窯出土の三筋壺 (半田市指定文化財)

知多半島では、日用品を中心に大小様々な製品が作られました。その中でも、三筋壺と呼ばれる3本の横筋が入った壺が有名です。三筋壺は貯蔵容器として、九州地方から東北地方までの広い範囲に流通しました。その一方で、寺跡やお墓などからも見つかっており、骨壺としても利用されていたことが分かっています。

半田市の長成池古窯からは、三筋壺が完形品で2点出土しました。緑色と茶色の美しいコントラストを見ることができます。

ぜひ博物館へ見学にお越しください。



【問合わせ】博物館 ☎23-7173